

# 施策評価表

京 都 府 南 丹 市  
作成日：平成23年7月4日

平成23年度(平成22年度実施)

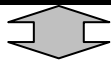
評価施策名	6 にぎわいの市街地をつくる	施策CD	36	施策主管部	土木建築部	部長名	井上 修男
政策名	第3章 人・物・情報を高度につなげる			施策関係部	総務部・企画政策部・農林商工部		

## 【施策の概要】

### 1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
区画整理進捗度	%	67.0	75.0	80.0	77.0	90.0	100.0
商工会会員数	人	843	798	860	778	880	900

○ 魅力あるまちとしての再生を図り、市内における商業の活性化を進める。



### 1 南丹市の現状(課題)

○ 旧来からの市街地が空洞化し、その活性化のための取り組みを進めている。  
○ 定住人口の減少と高齢化、商業の低迷が進み、かつてのにぎわいを失いつつある。

■ 市内の商店数と従業員数(卸売業・小売業)

	平成9年	平成11年	平成14年	平成16年	平成19年
商店数	541	526	464	452	427
従業員数	2,203	2,121	1,887	1,993	1,788

(現状)  
・市内年間商品販売額 2,795千万円(平成16年)

### 2 対策をしなければどうなるのか

○ 市街地の空洞化が更に進み、にぎわいを失う。  
○ 定住人口の減少と高齢化が進む。

### 3 それは何故おきたのか

○ 近隣市町や周辺部への郊外型大型店の出店や、インターネット等による通信販売の増加などにより、身近な地域の商業がさびれてきている。  
○ 商業の低迷と定住人口の減少、高齢化が、旧来からの市街地の空洞化に拍車をかけている。

### 4 それらを解決するために何をするのか

①多くの人でにぎわう市街地を整備する。  
・土地利用の方向性を明確に定めた都市計画の推進  
・「都市計画マスタープラン」「緑の基本計画」の早期策定  
・各種土地区画整理事業の推進 ・駅前や駅周辺の整備

②魅力ある商業の集積を促す。  
・市のシンボルとなる交流拠点の整備 ・空き店舗対策やイベント開催等への支援  
・暮らしの中心となる地域拠点の創出

③市内における商品販売額を増やす。  
・商工会などのまちづくり活動団体への支援  
・事業者への支援と育成活動の実施

④まちなかにおける魅力ある公園を整備する。  
・市街地や住宅地における都市緑化の実施  
・公園の適切な管理、多様な世代の人々が楽しめる公園環境の充実

## 【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)	千円	576,092	636,660	344,360	311,714	292,543
財源内訳	使用料・手数料	千円	0	69,800	0	0
	国・府支出金	千円	70,150	168,709	143,812	17,050
	地方債	千円	308,000	319,000	57,400	118,100
	一般財源	千円	197,942	79,151	143,149	176,564
職員従事人数	人・年	3.73	8.20	10.10		
人件費	千円	23,244	52,598	64,576		
事業費総額	千円	599,336	689,258	408,936		

## 【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 16 事業

単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
土地区画整理事業(土地区画整理事業)	13,368	13,368	7,368
土地区画整理事業(土地区画整理事業)	139,811	82,211	7,610
商店街活性化研究等事業(商店街活性化研究等事業)	2,100	2,100	1,736
土地区画整理事業(小山東町土地区画整理事業)	4,265	4,265	3,530

## 【前年度の評価】(要約)

【総合評価】  
本町区画整理については、課題も残しながらではあるが計画的に推進できている。商工会の目標値である会員数については、増加を見込んでいるが、現在の商工会を取り巻く状況を見る時課題目標となっている事から、今後見直しが必要。

【改善の方向性】  
商業を取り巻く状況は一層厳しく我が市において商業の活性化を進めるため、行政支援がどこまで出来るのかを関係者と協議する中で方向を出す必要がある。  
園部の中心市街地に賑わいを取り戻すため、にぎわいコンソーシアム園部を中心に町の声に耳を傾け、賑わい創出のための事業を立案・実践を継続して進める。  
計画策定や審議会運営は住民代表の声を計画に反映させる。  
雨水排水は早期完成を目指し、事業を計画的に進める。  
公園事業は平成22年度で一定整備が完了する。  
本町区画整理はまちづくり計画と連携しながら、早期に完成をさせる。  
組合事業の区画整理は、経済不況下で保留地の販売が出来ないという大変厳しいことから、行政支援がどこまで出来るか検討する。  
商店街の賑わいを取り戻すためには、事業者の自助努力も必要、その中で、必要な事業に支援をするもので、事業者主体の住民参加のまちづくりを推進する。

## 【今年度の評価】

【総合評価】  
①目標の達成状況  
商業施設の集積割合の減少などにより、中心市街地の集客力の機能の低い課題はあるが、区画整理の面整備は計画的に進んでいる。  
②目標値や施策の考え方の見直し  
商工会、コンソーシアムが連携、協働していくことが大切である。  
商工会は、南丹市全体についての活性化施策に重点を置いて活動しているため、それぞれの駅を中心とする中心市街地においては、コンソーシアム、商工会が連携する中で、イベント等の開催はすべきである。

【改善の方向性】  
①今後の方向性  
市民に密着した事業者自身が魅力ある商店街をつくるため、コンソーシアムや商工会などの構成団体と協力するなど、人が暮らす場にふさわしい商業環境を作り出せるかが重要になる。  
②各事業の対応  
地域コミュニティの推進など、まちづくりと一体となった魅力ある商店街づくりや、メディアを活用した産業連携の進展に伴い、これに対応できる経営者の育成や、メディアを活用した商業活動の取り組みが必要である。  
園部駅をテーマとして、本町においては、市の拠点として学生にとっても魅力ある商店街作りを行う必要がある。

## 【評価を受けて取り組んだこと】

・市民団体、NPO法人にぎわいコンソーシアムから「にぎわい創出ビジョン」の提言を受けた。今後は、この提言をもとに、市民、事業者、行政で組織する「推進委員会」を立ち上げ、検討のうえ実施する方向性を見出した。